

令和6年度 学校評価(最終評価)

独立行政法人国立病院機構
別府医療センター附属大分中央看護学校
2025.3.12

内容

1. 教員による自己点検・自己評価

1)全体評価

2)昨年度からの課題および今年度の取り組み

2. 学生満足度評価

1)卒業時満足度評価(令和5年度との比較)

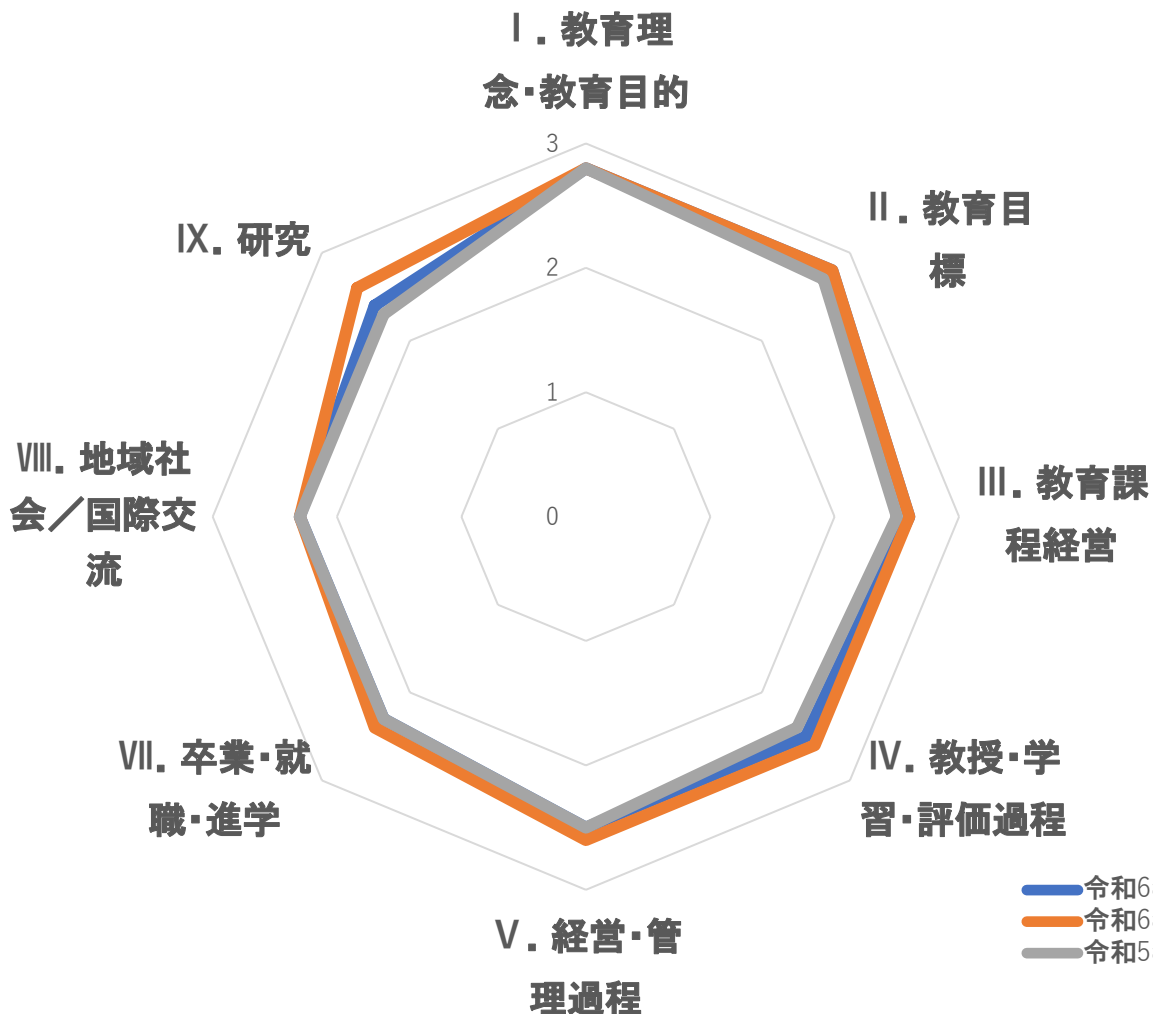
2)学生満足度評価(令和6年度中間評価との比較)

3)項目別評価

3. 令和6年度 学校評価(最終評価)

1) 教員による学校評価(自己点検・自己評価)

令和6年度 自己点検・自己評価 最終



評価カテゴリー	令和6年度 中間評価	令和6年度 最終評価（昨年比）	令和5年度 最終評価
Ⅰ. 教育理念・教育目的	2.8	2.8 (±0)	2.8
Ⅱ. 教育目標	2.8	2.8 (+0.1)	2.7
Ⅲ. 教育課程経営	2.6	2.6 (+0.1)	2.5
Ⅳ. 教授・学習・評価過程	2.5	2.6 (+0.2)	2.4
Ⅴ. 経営・管理過程	2.5	2.6 (+0.1)	2.5
Ⅶ. 卒業・就職・進学	2.3	2.4 (+0.1)	2.3
Ⅷ. 地域社会／国際交流	2.3	2.3 (±0)	2.3
Ⅸ. 研究	2.4	2.6 (+0.3)	2.3
平 均	2.5	2.6	2.5

*「Ⅵ. 入学」の項目は評価不可のため削除

* 評価基準 3: 十分満たしている 2: 満たしている
1: 改善の余地がある 0: 改善すべきである

(1)全体評価

- ・ 前年度最終評価との比較
全カテゴリーにおいて、同ポイント若しくは0.1～0.3^{ポイント}上昇。
- ・ 全9カテゴリーの平均は2.6^{ポイント}で評価基準「2.満たしている」結果。
- ・ 教員個々が評価した項目のうち「評価0:改善すべきである」の回答なし。

【評価1:改善の余地があると評価した項目】

「V.経営管理過程」

中項目「学生生活の支援」 小項目「高校・高等専修学校等との連携による
キャリア教育・職業教育への取り組み」

「Ⅶ. 地域社会/国際交流」

中項目「国際交流」 小項目「海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制、
留学や海外就業のための支援体制」

(2)昨年度からの課題および今年度の取り組み

「Ⅲ.教育課程経営」

中項目「教育課程経営者の活動」

小項目「教育理念・教育目的の達成に向けた一貫した活動」

- ・昨年度「評価1：改善の余地がある」と1名が評価したが、今年度は0名だった。
- ・授業や実習期間中の学内演習企画にて、目標、方法、評価などを共通認識し、一貫した活動ができるよう担当者会議や教員会議にて検討・共有した。
- ・専門性や経験年数の異なる教員に対して、理解できるよう教員間の支援体制を強化した。
- ・R5最終2.1^{ポイント}→R6最終2.4^{ポイント}(0.3^{ポイント}上昇)

中項目「教員の教育・研究活動の充実」

小項目「教員が自ら成長できるような自己研鑽システム」

「教員間の相互研鑽システム」

- ・ 昨年度までは、教員全員による研究授業や実施前後の検討会を実施していたが、今年度は実習教育強化のため「実習場面の教材化学習会」を企画・運営した。
→各自が教材化した場面の検討会を2回実施。7月の検討会で自己の課題を明確にした上で、12月に再度検討会を実施した。検討会を通して、各実習科目における教育内容と臨床場面での指導方法について理解が深まり、他の教員の実践事例を共有することで自己の課題の明確化や実習指導強化につながった。

中項目「学生の看護実践体験の保障」

小項目「学生の看護実践の学習を支援する体制」(R5最終2.5^{ポイント}→R6最終2.5^{ポイント})

- ・臨床との連携による臨床判断能力向上のための取り組みについて実習指導者会議学習会を企画、実習指導につながるよう学習を継続した。また、昨年度より、学生の臨床判断に関する研究に取り組んでおり、学生から得られた結果に関しては随時、実習指導者にフィードバックした。研究は現在継続中である。

小項目「臨地実習における学生の事故分析」(R5最終1.9^{ポイント}→R6最終2.7^{ポイント})

「安全教育・安全対策の取り組み」(R5最終2.2^{ポイント}→R6最終2.8^{ポイント})

- ・学生の事故分析や安全教育・安全対策の取り組みは、昨年度からの課題であった。
- ・インシデントは学生自身ではなく、教員や指導者が発見することが多いため、学生のリスク感性を養う目的で、インシデント発生時は速やかに共有し、報告の必要性を説明した。その結果、意識が高まり、後半は報告件数が増加した。
- ・指導者に対して、卒業前の学生の医療安全に関する状況について説明し、認識してもらった。

「Ⅳ.教授・学習・評価課程」

中項目「授業の展開過程」「目標達成の評価とフィードバック」

- ・新カリキュラム科目として、各領域・科目に看護の展開授業を2年次に履修しているが授業で学んだ知識・技術の臨地実習での活用、評価が今年度の課題であった。
→各領域「2年次の看護展開で学んだ知識・技術を実習で活かせたか」学生および教員にアンケート実施。特に対象理解やアセスメントにおいて活かせていた。

「Ⅴ.経営・管理過程」

中項目「学生生活の支援」

小項目「高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育への取り組み」

- ・「評価1:改善の余地がある」と1名の教員が評価した。
- ・今年度は高校との連携を実施していない。学校存続であれば、積極的に取り組みたい内容である。

「Ⅶ. 卒業・就業・進学」

小項目「卒業時の到達状況の分析」(R5最終2.0^{ポイント}→**R6最終2.5^{ポイント}**)

- 昨年度、看護技術の経験率は集計していたが、到達度評価の分析ができていなかったため、今年度強化した項目である。新カリキュラムに合わせ、技術項目を見直し、整理するとともに到達度表に変更した。
- 中間評価時点では、到達度評価と経験率を混在して集計していたため、到達度評価の把握ができていなかった。教員は、中間評価の結果に基づき現状把握をすることにより、担当実習先で経験できるよう調整し、技術到達度向上に向けて支援した。
 - 実習指導者会議にて、中間評価結果や経験率が低い看護技術を説明した。
 - また、到達度評価であることを指導者や学生に再度説明することで、技術到達度結果の集計および分析をした。
- 「単独で実施できる」の項目において到達できていない項目もあったため、卒業前技術確認として、「片麻痺のある亜急性期の対象の関節可動域を考慮した看護技術」「呼吸苦のある対象の安全・安楽を考えた看護技術」について実践を評価した。また、卒業までに全員が合格できたことを確認した。

「Ⅷ. 地域社会/国際交流」

中項目「国際交流」

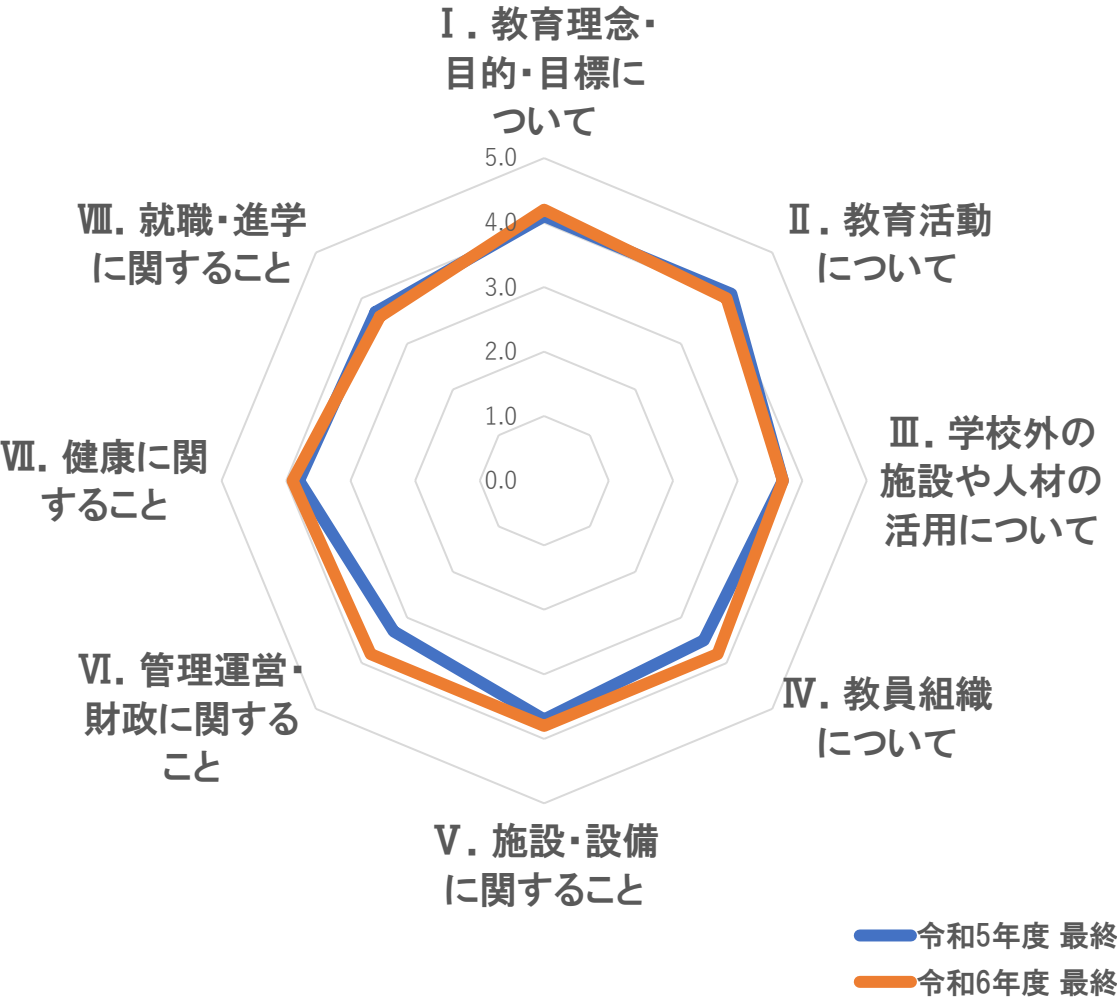
小項目「海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制整備」

「留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応 できる体制」

- ・ 上記、小項目2項目については、評価1と評価した教員が複数名あり。
- ・ 帰国学生や留学生の受け入れ体制(R5最終1.7^{ポイント}→R6最終1.7^{ポイント})
留学や海外における就業支援(R5最終2.2^{ポイント}→R6最終2.1^{ポイント})
- ・ 卒業時に海外に就業を希望する学生はいないが、卒業後、海外での就業を希望する際は、証明書の発行等実施している。帰国学生や留学生の受け入れ体制は整っていないが、閉校のため、新たな整備の必要性はないと考える。

2) 学生満足度評価

卒業時満足度評価(令和5年度との比較)

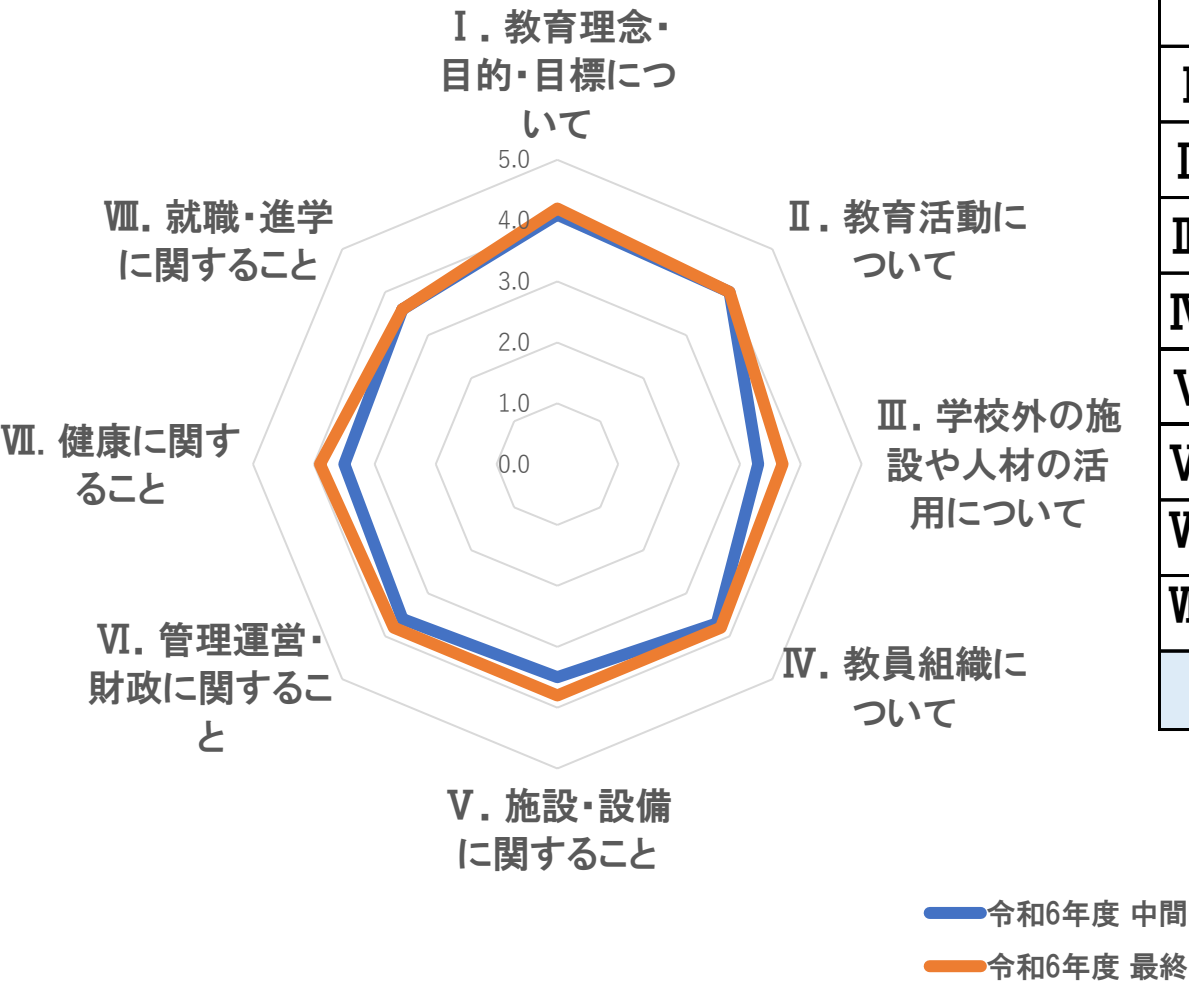


*評価基準
5:大いにそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない
2:あまり思わない 1:まったく思わない

評価内容	令和6年度	令和5年度
	最終	最終
I. 教育理念・目的・目標について	4.2	4.1
II. 教育活動について	4.0	4.1
III. 学校外の施設や人材の活用について	3.7	3.7
IV. 教員組織について	3.8	3.5
V. 施設・設備に関すること	3.8	3.7
VI. 管理運営・財政に関すること	3.8	3.3
VII. 健康に関すること	3.9	3.8
VIII. 就職・進学に関すること	3.6	3.7
平均	3.9	3.7

最終評価3.6～4.2^{ポイント}、平均3.9の高い評価であった。
「IV.教員組織について」0.3^{ポイント}上昇
「VI.管理運営・財政に関すること」0.5^{ポイント}上昇

(2)学生満足度評価(令和6年度中間評価との比較)



評価内容	令和6年度	令和6年度
	中間	最終
Ⅰ. 教育理念・目的・目標について	4.1	4.2
Ⅱ. 教育活動について	4.0	4.0
Ⅲ. 学校外の施設や人材の活用について	3.3	3.7
Ⅳ. 教員組織について	3.7	3.8
Ⅴ. 施設・設備に関すること	3.5	3.8
Ⅵ. 管理運営・財政に関すること	3.6	3.8
Ⅶ. 健康に関すること	3.5	3.9
Ⅷ. 就職・進学に関すること	3.6	3.6
平均	3.7	3.9

全ての項目において同^{ポイント}または上昇
「Ⅲ.学校外の施設や人材の活用について」**0.4^{ポイント}上昇**
「Ⅶ.健康に関すること」**0.4^{ポイント}上昇**

(3) 項目別評価

「Ⅲ.学校外の施設や人材の活用について」3.7^{ポイント}

(中間評価比0.4^{ポイント}上昇、R5最終比同^{ポイント})

- ・後期は国家試験の自己学習に地域の図書館や学外の施設を利用したことや、地域貢献活動の活動結果を学校ホームページや院内広報誌を通してアピールしたことが評価の上昇につながった。

「Ⅳ.教員組織について」3.8^{ポイント}(中間評価比0.1^{ポイント}上昇、R5最終比0.3^{ポイント}上昇)

- ・前年度「話しかけづらい」「連携が悪い、教員間の情報共有できていない」「指示が遅い」などの自由記載があった。
- ・今年度は学生が1学年であったことや、朝ミーティングで情報共有したこと、申し送りを強化したことが評価の上昇につながった。学生からは「連携の不足はあったが、改善されてきた」との自由記載があった。

「Ⅵ.管理運営・財政に関すること」3.8^{ポイント}（中間評価比0.2^{ポイント}上昇、R5最終比0.5^{ポイント}上昇）

- ・「学生の意見が取り入れられているか」問うている項目である。
- ・昨年度後半より、学生による実習評価やアンケートのWeb入力に変更していることや1学年のみの在籍であることから、使用教室や設備を希望に沿って使用できたこと、学生のニーズを取り入れた内容を教育計画(時間内)に確保したことなどにより、評価が上昇した。

「Ⅶ.健康に関すること」3.9^{ポイント}（中間評価比0.4^{ポイント}上昇、R5最終比0.1^{ポイント}上昇）

- ・中間評価では、「教員へ相談しやすい」「具合が悪い時、保健室の利用がしやすい」について「1:全く思わない」と回答した学生が13名みられたが、最終評価では「1:全く思わない」と回答した学生は10名程度減少した。この学年は体調不良で欠席する者が少ないため、教員への相談や保健室の利用の必要性がなかったことが考えられたため、「必要時」と質問項目に注釈したことが評価の上昇につながった。
- ・「Ⅳ.教員組織」の項目で、教員へ「相談しやすい」「話に耳を傾けてくれる」の評価が上昇していることも評価の上昇につながっていると思われる。

「Ⅷ.就職・進学に関すること」3.6^{ポイント}（中間評価比同^{ポイント}、R5最終評価比0.1^{ポイント}低下）

小項目「就職・進学情報、受験報告書、教員からの情報を十分活用し、進路決定した」

小項目「進路相談は十分にできている」

- ・「1：全く思わない」と答えた学生が4～5名おり、中間評価（1～2名）に比べ増加した。
- ・自由記載では「親身になって相談に乗ってもらえた」「複数回面談があり、進路決定に役立った」と複数の学生が回答していた。
- ・本人の適正と選択する施設のミスマッチを防ぐため、面談では本人の意思を尊重した施設選択を助言し、本人・家族が最終決定できるよう支援した。しかし、「希望ではないのに別府医療センターを勧められた」「希望する進路を否定された」との記載があった。
→教員の思いや説明と学生の受け止めにズレが生じた可能性がある。